

【投 稿】

喜寿超え獣医師の回想(2)

岡 崎 充 成

(空知支部)

2. 北海道職員に転職し公衆衛生に従事(7年半)

昭和47年10月に旭川保健所(旭川HC)に赴任しました。医師・薬剤師・保健師など専門家が多い職場経験から印象に残る2項目を述べます。

(1) 食品衛生監視員(食監)の時に組織原則を学ぶ

衛生課は「新聞によく載る」、「裁判も抱える」、「消費者や業者対応」などからか、非常に引き締まっていました。職場組織には「意見の相違」、「そりが合わない」等で、ちぐはぐな対応をみることがありますが、ここでの外部対応は、見事に整合性がとられていました。興奮した消費者や業者でも、初めは平の食監が対応し、収まらないと係長が、平の立場を尊重しながらも、見方などを変えて言い直す。それでも納得しない時は課長も入り、係長が説明すると、課長は「そうですね」と言うことが多かった。この3枚のカードで殆ど解決していました。後の職場で所長が先に対応してしまい、翻意も叶わず大問題になったことがあり、この「組織原則」は大切だと思っています。

(2) 試験室での薬物管理

試験室に配置され、約1年半は水の分析に従事しました。最初の仕事では薬品を使い、保管戸棚に戻したのですが、定位置でなかったことが問題になりました。薬物は「アイウエオ」順に整理し、毒薬物は施錠保管されていました。

旭川HC5年間、由仁HCで水道・ゴミ処理などの環境衛生に2年半の間従事した後、福島県に割愛になり、福島県での最初の赴任は郡山家保でした。

3. 割愛で福島県(家畜保健衛生所)職員(11年)

(1) 郡山家保での印象深い薬物関係の仕事(薬物の台帳作成と毒薬物の廃棄処分)

2年目に病性鑑定課に配置され、初代の生化学担当になりました。旭川HCの体験から薬の管理には鋭敏にはなってはいましたが、無施錠の薬物戸棚を見てびっくりしました。青酸ソーダー(NaCN)500gが他の薬物と混在していました。同じ薬物が数本もあったので、個体番号を付け、1薬物で1枚の紙を使い、「アイウエオ」

順と複数薬物の整理ができる「薬物台帳」を作ったので、在庫があるのに購入することはなくなりました。現物も「アイウエオ」順に置くようにしました。整理を終えて、毒薬物は500gのNaCNが4本、昇汞(HgCl₂)が60~70kg、その他数種類を確認しました。昇汞は殆ど消毒薬であったと思いますが、水銀汚染が問題視され、あまり使われなくなっていたのですが、強毒とは知らず、素手で安易に扱っていました。無知といのは怖いものです。不用の毒薬物の処分は専門業者に依頼し、残した毒薬物は風袋込みの重量を台帳に記載し、施錠保管にしました。

(2) クロロホルム殺人事件で警察の調査を受ける

県内でクロロホルムによる看護師殺人事件が発生しました。暫くして、購入履歴があったからと警察の立ち入り調査がありました。課長がクロロホルムの使用例などを話したが、納得を得られないからと呼ばれました。私は、薬物台帳をみせながら、高速液体クロマトグラフでの検査用に、ガロン瓶3本(=約12l)購入したこと。①は使いかけであり「×」印、②③は未開封なので「○」印ですが、1本は蓋が緩く蒸発して少し減っていると説明しました。現物を見ますかと聞くと、見なくてよいと納得して帰られました。警察は監査資料のような整然としたものよりは、トッサに書いたメモのようなものを重要視すると聞いていましたが、メモに近い鉛筆書きの、薬物台帳が信用されたようです。

4. 会津若松家保で高齢の和牛繁殖農家を指導

(1) 指導方法の模索

只見川沿い三島町の放牧検査時に、以前高齢者の「生きがい」対策で、和牛繁殖牛を導入したが、子牛を1頭も生産できずに廃用にしました。今回は子牛を生産して「生きがい」にしたいと指導要請があり、私が担当することになりました。少し前、千葉県共済連の渡辺高俊先生の「乳牛の2本立て給与法」(渡辺方式)を読み、白金牧場在職中に知っていれば、苦労を軽減できたのと思っていたところでした。その特徴は、①母体維持の飼料(基礎飼料)は粗飼料主体、②産乳のための飼料(変数飼料)は濃厚飼料で、2kgの乳量変化に1kgの変数飼料を増減し、乳量の変化に対応できる優れた方法です。③栄養バランスは下式の「NR」で見えており、数字が「大」なら蛋白質は少ない、「小」なら蛋白質が多い飼料です。

$$NR = \frac{TDN(\text{可消化養分総量}) - DCP}{DCP(\text{可消化粗蛋白質})}$$

$$\text{農家に分か} = \frac{\text{炭水化物} + \text{脂肪} + \text{蛋白質} - \text{蛋白質}}{\text{蛋白質}} = \frac{\text{炭水化物} + \text{脂肪}}{\text{蛋白質}}$$

渡辺方式は基礎飼料が $NR=8.5 \pm 1$ 、変数飼料は $NR=4 \pm 0.2$ で、その外ビタミン等も重要視していました。これを参考に和牛版を作りました。

(2) 和牛版の二本立て給与法

基礎飼料は $NR=8.5 \pm 1$ とし、野(乾)草・牧(乾)草とワラを次の給餌まで少し残るぐらい給与する。コーンサイレージは嗜好性が良く、過肥になりやすいので、給与量を5kg以下に抑え、粗飼料主体にすること。変数飼料は $NR=4.5 \pm 1$ とし、ビタミン等も考慮し、分娩から4カ月間はルーサン乾草(orヘイキューブ)2kg+専管フスマ2kg、4～6カ月間は半量の各1kgを給与する2本立てにしました。

牛の導入に先立ち講習会を開き、「和牛版」を説明したところ、70歳以上の「おじいちゃん」が、やや顔をこわばらせ「俺は何十年も牛飼いをしている、今更そんな面倒な飼う方ができるか!？」というのです。私は長年の経験に敬意を表しつつも、「解りやすくしたし、良いと思ったら、信じてやって欲しい、信じるものは救われる」と言ったら、大爆笑になりましたが、参加していた酪農家が「先生の言うのは本当だ、乳牛では計算はあたりまえだし、2本立ては難しいようだが、実際の飼養管理では案外簡単だ」と言ってくれました。このように、牛飼いの仲間から言われ、「おじいちゃんも納得」2本立てを採用してくれました。導入後は、午前の巡回指導時に給与飼料や血中 β カロチン等を測定し、午後の講習会で測定結果や農家の疑問に答えながら、飼養管理を指導しました。これらの結果、70歳以上4戸の平均分娩間隔は

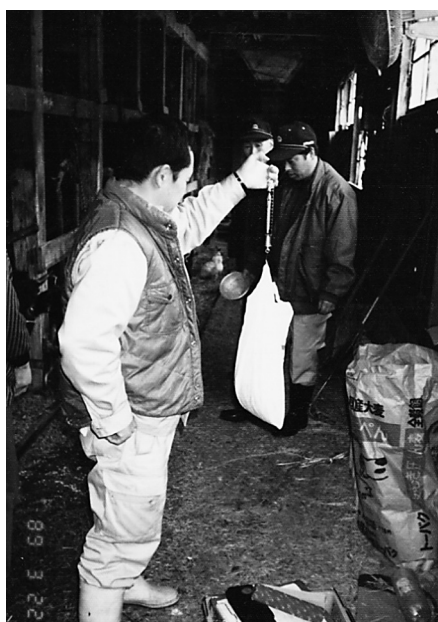


講習会の様子

巡回の内容や、農家の疑問などを話題に盛り上がる
講師は福島県農業普及所の先生

12カ月未満(彼らは1年2産と言っていた)を実現し、それより若い3戸も約13カ月でした。導入前「……できるか!？」と発言していた人が、収入もうれしいが、「県内でもトップクラスの技術を、じいちゃんも持っている」と家族が誇りに思い、地域からも尊敬されるのが「一番嬉しい」と話しているのを聞いて、お手伝いが出来て良かったなと思いました。

以上2家保の勤務は通算11年でした。次回は畜産試験場(畜試)沼尻支場での体験です。



巡回指導

給与飼料を秤ったり、血液検査で適正管理につなげる

(俳句)
牛馬の居て白樺の夏木立
(川柳)
缶コーヒー粉乳消費でオレオレ化
(都々逸)
老眼で
キーを打ちます
カルテの画面
デカ字モードは
ありがたい
(現代漢詩)
過 勞
四変多発酪農場
手術付添従業員
突然耳疑牛呻吟
爆睡大野従業員
(幕別町 豆作(まめさく))